若手医師リレーエッセイ
Spirits
スピリッツ

普通酒には大吟醸にない魅力があるという話

市立釧路総合病院
倉冨（くらとみ）　渉平（しょうへい）

北見北斗、札幌医科大学を経て市立釧路総合病院に勤務しております倉冨渉平です。写真は卒業旅行出発前にビールを飲む私です。こんないい笑顔してますが、次の日にシンガポールでぼったくられます。

初めまして。市立釧路総合病院研修医１年目の倉冨渉平と申します。前回の筆者である伊藤聡希先生よりバトンをいただき、現在締め切り前日に書き始めているところでございます。本文を書くこと以上に苦労していたのは次の筆者を探すことでした。こんなことを言うと怒られそうですが、まるで不幸のメールだと思いながらいろんな方に声を掛けていました。最終的には心優しい大学同期がバトンを受け取ってくださり無事に解脱することができました。

さてエッセイのテーマですが、完全に自由というお話でした。人間は自由と言われるとむしろ選択に困る生き物です。母親に「晩御飯何が食べたい？」と聞かれた際に「なんでもいい」と答えると母が不機嫌になってしまった……こんな経験皆さま一度はあるのではないでしょうか？　そんなときに使える心理学が“選択話法”と呼ばれるものです。「ＡかＢどちらがいいか」と聞くことで、強制的にYesを引き出す方法です。私はこの会話方法を応用して「A、B、それ以外」の３択にすることで、ご飯のお店を決めるようにしています。立場柄、病院見学に来た学生と懇親会に行くことが多く、この方法で毎度乗り切っております。

大分脱線してしまいましたが、今回のテーマですが、“お酒”について書こうと思います。私は決してお酒が強いわけではありませんが、お酒好きではあります。特に好きなのは日本酒で、好きな銘柄はネット通販で毎年買ってちびちび飲んでいます。今回は特に好きな銘柄２つと出合った経緯を書きたいと思います。

１つ目の銘柄は秋田県の福禄寿酒造で作られている一白水成です。日本酒好きの方で秋田と聞けば新政シリーズを想像する方も多いのではないでしょうか。もちろん新政もとてもおいしい日本酒ではありますが、何よりも希少なので中々飲むことができません。私にとってのお酒のモットーは「飲めない高級酒よりも飲める大衆酒」です。その点で一白水成は一定以上の流通量があるため割りと簡単に手に入ります。はじめてこのお酒に出合ったのは５年生の時に北医体で秋田県に遠征に行った時のことです。私は遠征中にこっそり酒屋に行って日本酒を物色していました。というのも、先ほど話題に出した新政を買ってきてほしいと友人に頼まれていたためです。しかし流石は人気銘柄。どこに行っても新政はなく、仕方なしに別の銘柄を買うことにしました。その時に店員さんからお勧めされたのが一白水成でした。遠征から帰ってきた後に新政を頼んだ友人と二人で飲みましたが、ものの１時間で４合瓶が空になってしまいました。お米の風味をしっかり残していながらも軽やかな飲みごたえで、どんな食事に合わせても邪魔をしない。そんな味に一目惚れ、いや一飲惚れしました。やはり酒屋の店員さんはプロ、確実においしいお酒を知っています。旅行先では酒屋に出向いてお酒を買いたいものです。

２つ目の銘柄は新潟県の萬寿鏡酒造が作っているF40です。これは５年生の時に日本酒好きな同期４人と新潟旅行に行った際に出合いました。日本酒旅行という名目で３日間ただひたすらに酒を飲み続ける旅行に行き、あらゆる酒屋で日本酒を買いました。私一人だけで４合瓶で10本ほど買って帰り、スーツケースがあり得ないほど重くなったのはいい思い出です。F40はそんな日本酒旅行の最後に買った１本です。新潟の伊勢丹地下で試飲販売をしているところに出合いました。F40は米の等級の関係で普通酒になっていますが、精米歩合40％とほぼ大吟醸のようなお酒です。数量限定で、目の前でどんどん売れていく様を見て、私たちも流れに乗るようにして買いました。香りがよく、旨みという言葉がよく似合う芳醇な味わいでした。非常に高級感ある味ですが、非常に安価に売っているところも魅力的な１本です。

そんな日本酒が大好きな私ですが、最近の悩みはあまり日本酒が飲めていないことです。というのも私はあまりお酒が強くないせいで、満足するまで飲むとほぼ確実に二日酔いになってしまいます。さらに最近は土日の当直に入る頻度も高く、業務に支障をきたさないようにするために我慢が続く日々です。ほどほどに飲めと言われればそれまでなのですが。

取っ散らかった文章でしたが、最後までお読みいただきありがとうございました。